

感 所 頭 年

榎本樹邨名誉会長代行揮毫

中日新聞1月1日号より転載

新年のご挨拶

会員の皆様、明けましておめでとうございます。今年も健やかな新年をお迎えのことと存じます。

わたくしも、昔で言うところの八十七歳の齢を数えることになりました。昨年九月に放映されたNHKB Sのテレビドキュメンタリーでご覧いただいたことと思いますが、二十五年ほど前になりますが、わたくしが総理時代に当時ソ連のゴルバチョフ大統領との会談や、北方領土返還のいきさつなど、日ソ交渉の秘話についてインタビューを受け、お話をさせていただきました。今は政治の世界から一歩退きましたとはいえ、ご覧のとおりいたって元気でありますのでご安心ください。

さて、昨年のトップニュース



名誉会長 海部俊樹

はアメリカ大統領選挙でした。日米の友好は変わることはないと思いますが、日本の政治経済にとつて先行きはトランプさんの出方次第ではないでしょうか。期待したいと思います。

国内では、天皇陛下が生前退位のお気持ちをご表明されました。わたくしなどは心を強く動かされましたが、これは国民全体でよくよく考えていかなくてはならないことではないでしょうか。転じて、南米ブラジルのリオデジャネイロ・オリンピックでは、日本は数多くのメダルを獲得しました。また大隅さんのノーベル医学生理学賞の受賞は、少ないながらも明るいニュースだったと思います。

伊藤昌石理事長のもと、役員会員の皆さんが一丸となって書道の普及発展、書道教育の充実にご尽力されんことを願います。

あけましておめでとうございます。会員の皆様、よいお正月を迎えられたでしょうか。昨年はイギリスのEU離脱、アメリカの大統領選挙、隣国・韓国の大統領による背任問題と、色々驚かされる事が多かったように思いました。今までの常識が非常識となり、非常識が常識になる時代。世界中が大衆迎合主義（ポピュリズム）に傾いている様相を如実に物語っているようでした。今年の日本にとつても、これらの問題が大きな影響を及ぼすのは確実です。本会には世界情勢、国内情勢を見極めながら、正しい航路を考えて行かねばなりません。

今年には日中国交正常化四十五周年、翌年は日中平和友好条約締結四十周年を迎えます。昨年大村秀章愛知県知事からご相談があり、「今年、来年とそれぞれ愛知県・中国江蘇省



理事長 伊藤昌石

主催で日中友好の文化交流として、書道展を開催したいので、中部日本書道会に全面的に協力して欲しい」との打診があり、昨年十二月四日の理事打ち合わせにて理事の先生方と協議し、全員一致で可決されました。詳細はこれから県側と相談の上進められる事となりますが、今年も秋、江蘇省南京で展覧会を開催。翌年、愛知県側が開催することになる為中日展開催時にコラボして、電気文化会館にて展覧会を行う予定です。これに伴い、毎年恒例の国内研修旅行を海外研修旅行に切り替えて協力したいと考えております。

二月には理事・評議員会、講演会が予定されております。又、本年度は会員名簿作成の年です。六月には役員・理事の改選も行われます。新年にあたり、改めて気を引き締める会の運営がより良い方向へ進むことを決意し、「和」の精神を心がけ、邁進し続ける考えです。皆様にも各行事の参加、中日展出品数の増加をお願いし、年頭のご挨拶といたします。新たな一年がんばりましょう。

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C000室
 電話 (583) 19000
 F A X (583) 19100
 http://www.cn-sho.or.jp
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

目次

- 1 海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」
榎本樹邨名誉会長代行揮毫
伊藤昌石理事長「新年のご挨拶」
安藤滴水名誉副会長「年頭所感」
榎本樹邨名誉会長代行
第六十一回現代書道二十人展にご出品
第二十八回書道教育研修会・
外国人書道研修会 (P2、P3)
- 2
- 3 第二十五回記念書展
第二十回公開講座
- 4 改組 第三回日展入選者
会員交流ポウリング大会
- 5 第六十七回中日書道展出品規程(抜粋)
同 日程表
- 6 二〇一六チャリティ愛の募金
募金参加者名簿
- 7
- 8
- 9
- 10

安藤滴水名誉副会長 年頭所感



日展に高次生の皆さんにも出品ができる制度を導入し古典をベースに本格的に取り組んでいます。その甲斐あって昨年一昨年は大学生で日展入選... 認可を受ける本会には一般部員が在籍し、四六〇名程の会員が在籍しています。共に筆を持ち古典に学び漢詩を書き万葉集あるいは文学等を素材にする書道は日本人の美意識を養い自然や人生の機微にも触れるようになります。公益法人のつとめとして、公益法

日本人の美意識

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 安藤滴水

謹んで新年のお慶びを申し上げます。いま芸術の世界、音楽の世界、あるいは文学、スポーツ等あらゆる分野に於て若者は世界を舞台にはばたいています。公益社団法人中部日本書道会に於ては数年前から中

中日新聞一月一日号より転載

本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

第六十一回現代書道二十人展 ご出品

会期 平成二十九年二月二十五日(土)～三月五日(日)
会場 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

平成二十八年度 第二回理事会・第一回評議員会

平成二十九年二月十二日(日) 名古屋観光ホテル

講演会

講師 澄懷堂美術館学芸主任 井後尚久氏
演題 「弘法大師の書——灌頂曆名——」

第二十八回書道教育研修会 外国人書道研修会

教育部長 後藤啓太

第二十八回書道教育研修会

十月十日(祝・月)、名古屋国際センター五階第一会議室に於いて二講座を開催しました。

講座の前に「書道講話」として、大池青岑企画委員長兼総務部長から、小中学校、高校の書道教育についてお話がありました。教科書の内容も多彩かつ豊富になり、四年前に改定された常用漢字表はおよそ二百文字ほど増加されました。しかし、その字体・字形は以前とは違うものもあり、書道教育の環境が変化していることを知ることができました。

漢字の上小倉積山先生は「臨書を楽しむ」をテーマに、まず古典の見方、学ぶにあたり心構えをお話されました。実技指導では課題の「雁塔聖教序」が九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑・蘭亭序の特長を併せ持つこと、「張猛龍碑」では龍門造像記についてもお話いただきました。また「蘇軾」のこだわりとして、字の特長やその書き方をご指導いただきました。古典を繰返し学ぶことにより新しい発見を得られ、技術的・人間的にも高められるというお話を受講生の皆様は心に刻まれたようです。



書道講話 大池青岑先生



漢字の講座 上小倉積山先生



かなの講座 山本雅月先生



熱心に取り組む受講生

かなの山本雅月先生は、「かな古筆の学習法」というテーマで、平安時代の古筆を中心に講義をして下さいました。古筆から学ぶ美の要素は多く、繊細美・転折と行立の美・流動美・濃淡美などがあり、回転とリズムには「本阿弥切」、余白美には「寸松庵」など学ぶに相応しい古筆を具体的にその特徴と共に説明いただきました。実技指導では課題の一首を半紙に書き上げました。先生が受講生を優しく見て回られ、皆様かなの美に触れながら心地良い緊張感を感じられたようです。二講座とも先生の丁寧な講義で、受講生の皆様から「知識と実技の両方が勉強でき、次回も参加したい」と嬉しいお声を頂きました。講師の先生方に深く感謝申し上げます。会員の皆様には多数のお申込みを頂き有難うございました。

第二十五回記念 壽書展

第二十五回記念壽書展を平成二十八年十一月一日(火)から六日(日)まで電気文化会館五階東・西ギャラリーにて開催いたしました。

壽書展は満七十歳以上の本会会員、会員外からも広く出品を募集しており、今年は記念展という事もあり様々な部門にわたり、計百九十九点と例年よりも多くの作品が展示され、いつもにも増して大ベテランの先生方の作品に圧倒されました。

また、十一月三日(祝・木)には名鉄グランドホテルにて、懇親会が開催され、出席された方々の楽しませているお姿が印象的でした。

会期中は天候にも恵まれ、多くの方に足をお運び頂きました。最終日には、第二十回書の魅力公開講座も同階イベントホールにて開催され、特に賑わいをみせておりました。

搬入、搬出、作品展の開催にご協力頂いた企画委員の先生方、協賛会員・第二事業部の皆様のご尽力のおかげで滞りなく終える事が出来ましたこと、心よりお礼申し上げます。

(文責 伊藤昌園)



展示風景

次回開催予定
第二十六回壽書展
平成二十九年十一月二十一日(火)～二十六日(日)
電気文化会館五階東・西ギャラリー



懇親会での鬼頭翔雲名誉副会長

外国人および初心者への書道研修会

十月十日(祝・月)、名古屋国際センター五階第三・四・五会議室に於いて、外国人および書道初心者に向けての講座を開催しました。

当日は、アメリカ・イギリス・ペルーから日本に一時的に滞在中の七人の外国人と、小学生から高齢の日本人、合わせて五十人の方が参加してくださいました。

講座に先立ち、関根玉振副理事長から「文房四宝」のお話を伺いました。また、文字の始まりは、その意味を表す絵であったことを「母」などを例にとり楽しく説明して下さいました。

午前の講座は「ポストカード作成」。まず半紙に山・春・桜・星・雪・絆など、手本を見ながら練習。数人ごとのグループに分かれ、指導して下さる先生方と談笑しながら和やかに進みました。書き上げたカードに墨流し(マープリング)で色を着けると、受講生はその



「文房四宝」の話 関根玉振先生



ポストカードの作成

美しい仕上がりに大満足されました。

午後の講座は「大筆に挑戦」。一九〇×一二〇センチの紙に全長一三〇センチほどの大筆で、空・月・樂・華・愛など思い思いの文字を外国の方々や学生さんを中心に希望者十五名が揮毫しました。初心者とは思えない堂々とした書きぶりに、会場は大盛り上がりでした。その後、同じ大筆などを使い、先生方の大作模範揮毫があり、漢字・かな・近代詩文書とプロによるいろいろな書作品を披露し、受講生は大いに感嘆されました。

外国人の受講生に向けて通訳して下さいる加藤紀子さんは、日本の受講生にも伝わるように例えや英語の単語を選んで通訳してください、日本語と英語が終始響く会場は新鮮な空気に満ちていました。

外国人をふくむ初心者を受講生の方々に、日本独自の書を体験していただき、中部日本書道会としても書の普及の新たな道筋ができたと感じることができました。

指導のお手伝いを頂きました先生方に深く感謝申し上げます。今後も新しく有意義な試みを取り入れて参りたいと思います。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



大字書に挑戦

第20回 公開講座

公開講座を終えて

研究部長 廣澤 凌舟

十一月六日(日)、名古屋電気文化会館イベントホールにおいて一五〇余名の方にご参加いただき第二十回公開講座を開催いたしました。

伊藤昌石理事長の開会挨拶の後、第一講座「私のたからもの」と題して理事・波切童州先生のお話が始まりました。本題に先立ち、書を志す人に大切な四つの事をお話されました。①書を好きになる事。②良い師匠を探す事。③無限の努力をする事。④良い環境に置く事。特に④の良い環境とは、「良い芸術作品を鑑賞したり作品をそばに置いて心豊かになれる出合いを作ってほしい。」と述べられました。先生の「たからもの」とは、先生所蔵の三点の掛け軸であり、それぞれの作者の人となりを研究され、いかにすばらしい作品であるかを講じて下さいました。その中の一点は「開運!なんでも鑑定団」にも出品され、一つのエピソードとして受講生の興味を誘いました。これからも家宝として一生大事にされるとの事でした。

時代の甲骨文に始まり金文、石鼓文へと書体が変わる事と、歴史の流れの関係性をロマンをこめて調べると楽しい。「近代詩文書は時代の必然として現代にあらわれ、芸術的に変化してきた」等、大変わかりやすくご説明いただきました。両講座共、ユーモアを交えながらの楽しいご講義で大変有意義な講座となりました。同フロアにて「第二十五回記念書展」が開催されており講座の前後に鑑賞された方も多くいらっしゃいました。



会場風景

国外旅行研修補助制度のご案内

本会では、会員(準会員・正会員)が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

- ①補助の対象者
会員期間が満十年以上の者とする。
 - ②補助金額
旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。
 - ③補助回数
会員期間中一回とする。
 - ④申請等の手続き
申請
補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。
 - ⑤申込期日
原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。
 - ⑥旅行の変更
旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更(中止)届を提出する。
 - ⑦添付書類
旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書(旅行先・日程等明記)又はその写しを添付する。
 - ⑧補助金の交付
申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。
 - ⑨事後報告
旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。
 - ⑩補助金の返還
補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は変換させるものとする。
- 会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。



第1講座 波切童州先生



第2講座 加藤 裕先生

熱心にご講演いただきました波切童州先生、加藤裕先生に厚く御礼申し上げます。
(文責 鈴木静香)

改組新第三回 日展 入選者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|--|-----|--|------|--|------|--|------|--|------|--|------|--|------|--|
| 水谷敏子 | 石黒直子 | 田中修文 | 遠藤真人 | 片岡秋華 | 林橋大樹 | 高橋秀加 | 石川明峰 | 山際雲峰 | 梶山盛涛 | 水野峯翠 | 川合玄鳳 | 小野景月 | 粟田江泉 | 若杉美香 | 水野佑華 | 川本大幽 | 柘英峰 | 鈴木裕子 | 伊藤翠芳 | 磯貝弘子 | 馬場紀行 | 田中光穂 | 加藤紫雲 | 岡本苔泉 | 佐藤慶雲 | 後藤啓太 | 野村清涼 | 野口紀代子 | 岡地紅華 | 家田馨子 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 吉澤有岐子 | 浅野多鶴 | 岐阜県 | | 田代青穂 | 黒川虚字 | 塚田俊可 | 清水春蘭 | 寺本陽春 | 今田昌宏 | 星野蘭雪 | 千葉晨洸 | 近藤青洸 | 加藤博子 | 大木清嵐 | 片山華洲 | 村田秋泉 | 津田秋月 | 鈴木立齋 | 大池敬岑 | 八木敬子 | 平松圭鳳 | 神谷采邑 | 香月恵里 | 伊吹代美 | 中尾芝菜 | 村瀬俊彦 | 田中幸江 | 小野田美晴 | 高島濤翠 | 齋藤禹月 | 松下英風 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 兵庫県 | | 南條佳園 | | 静岡県 | | 小野蹊泉 | | 菅生攝堂 | | 大嶋由美子 | | 工藤俊朴 | | 世古口大虚 | | 山本雅月 | | 永井天鱗 | | 中条彰山 | | 加藤満寿江 | | 井上鈴子 | | 井口方燕 | | 浅野京雅 | | 三重県 | | 小島夏香 | | 森本夏香 | | 白木紫香 | | 鈴木史鳳 | | 武井岳峰 | | 北村光苑 | |

(○印は初入選)
※日展発表名簿順
そのまま記載

会員交流
ボウリング大会を終えて

厚生部長 小島 瑞 柳

去る十二月十一日(日)、星ヶ丘ボウルに於いて、平成二十八年中部日本書道会会員交流ボウリング大会が開催されました。

伊藤昌石理事長の「いつも筆を持つ手で今日は思いっきりボウルを投げて楽しんで下さい。」との開会の言葉で始まりました。樽本樹邨名誉会長代行、安藤滴水名誉副会長、鬼頭翔雲名誉副会長三人の始球式で参加人数九十三名が腕を競い合いました。

一時間の熱戦の末、男性一位岩崎墨舟先生、女性一位河合幸苑先生に、それぞれ樽本名誉会長代行よりトロフィを



挨拶される伊藤昌石理事長



始球式



入賞者と

授与されました。
又、会長代行賞、副会長賞、理事長賞、副理事長賞、常任顧問賞、企画委員長賞が七人の先生のご芳志で設けられ、くじびきで男女十四名の発表があり、大いに盛り上がりました。
その他の人には全員の参加者に宝くじが配られ、年末に楽しみを残しました。
歓声の中、全員の順位発表があり、お疲れ様の懇談会に移りました。和やかに無事終える事が出来ましたことは、ご参加頂きました皆様、又、沢山の景品をご協力下さいました協賛会員様のお蔭です。本当にありがとうございます。

第六十七回 中日書道展 出品規程 (抜粋)

一、会期・会場

▼名古屋市民ギャラリー栄

平成二十九年六月 十三日(火)～六月 十八日(日)

▼愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー

平成二十九年六月 十四日(水)～六月 十八日(日)

▼名古屋 市博物館

一科展覧会——平成二十九年六月 二十日(火)～六月二十五日(日)
二科展覧会——平成二十九年六月二十八日(水)～七月 二日(日)

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上(平成十四年四月一日生まれ以前)の者とする。(但し十五歳(平成十四年四月一日生まれ)から二十一歳(平成七年四月二日生まれ)までの者は証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を提出する。)

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

一、審査日程

二科作品 平成二十九年五月十三日(土) 午前九時十分～
一科作品 平成二十九年五月十四日(日) 午前九時十分～
特別賞選考 平成二十九年五月十五日(月) 午前九時十分～

一、審査員

特別賞選考委員は、依頼・無鑑査作品の審査にあたる。
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。(二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する)
二科作品——二科賞(二点)・奨励賞(一点)・佳作(〇・五点)
一科作品——推薦(三点)・特選(二点)・準特選(一点)・秀逸(〇・五点)
無鑑査作品——中日賞・桜花賞
依頼作品——海部俊樹賞・大賞・準大賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。

一科 昇格——二科において総点三点に達した者
無鑑査昇格——一科において総点五点に達した者

依頼 昇格——無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
二科審査員昇格——依頼において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

一、授賞式

平成二十九年六月十八日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より(予定)

一、祝賀会

平成二十九年六月十八日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より
[参加は十八歳以上に限る。]

一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十四日(金)までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんので、注意下さい。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項
出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。
搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取って下さい。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前にご指導もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳(平成十四年四月一日生まれ)から二十一歳(平成七年四月二日生まれ)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。
出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。
※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十七回中日書道展作品展示会場

愛知県美術館ギャラリー 8F

六月十四日(水) ～ 六月十八日(日)

審査顧問 特別出品	一科審査会員 二科審査会員	一部・二部・三部 四部・五部 作品	一部・二部・三部・四部・五部 海部俊樹賞・大賞・準大賞 中日賞・桜花賞を含む
依 嘱	無鑑査	一部・五部 作品 二部・五部 作品	
無鑑査	名古屋市民ギャラリー栄	一部 作品	六月十三日(火) ～ 六月十八日(日)
無鑑査	名古屋市民ギャラリー栄	一部(中日賞・桜花賞は県美に展示)	
一 科	一部～五部 作品	六月二十日(火) ～ 六月二十五日(日)	
二 科	一部～五部 作品	六月二十八日(水) ～ 七月 二日(日)	

一科全作品を六月二十日～二十五日まで陳列し、掛替えは行わない。
 二科全作品を六月二十八日～七月二日まで陳列し、掛替えは行わない。
 ＊期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

展覧会役員作品

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	一四、〇〇〇円	理監一四、〇〇〇円 評参二、〇〇〇円 顧問は除く
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	一四、〇〇〇円	
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	一四、〇〇〇円	一、二、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	一四、〇〇〇円	
一科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	一四、〇〇〇円	理監一四、〇〇〇円 評参二、〇〇〇円 顧問は除く
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	一四、〇〇〇円	
二科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	一四、〇〇〇円	理監一四、〇〇〇円 評参二、〇〇〇円 顧問は除く
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	一四、〇〇〇円	
依 嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	二、〇〇〇円	八、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	二、〇〇〇円	
無鑑査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額縦横自由	二、〇〇〇円	八、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)	二、〇〇〇円	

・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
 ・依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)

・一審・二審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。

・篆刻は二印以内で印影のみとし枠張りアクリル入り共に可とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。

・刻字は一m平方以内とする。
 ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)

・依嘱以上の作品はアクリル入りとする。(第一部～第五部)
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半切額を認めない。

一科出品について

一科作品(二科会員に限る)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
C	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺)枠(縦横自由)	九、〇〇〇円	八、〇〇〇円
D	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺)		
E	一・八二m(六 尺)×〇・六m(二 尺)		
F	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺)		
G	一・二二m(八 尺)×〇・六m(二 尺)		
H	一・二二m(四 尺)×一・二二m(四 尺)		
I	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五 尺)		
J	〇・九一m(三 尺)×一・二二m(四 尺)		
K	二・二二m(七 尺)×〇・七〇m(二・三尺)		
帖・卷子	寸法は〇・三五m×四m・帖見開き〇・七m以内		

・十五歳(平成十四年四月一日生まれ)から二十一歳(平成七年四月二日生まれ)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める 十八歳以上は要年会費)
 ・作品寸法は右記の通りとする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)

・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。

・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。

・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

二科出品について

一、作品寸法

二科作品(準会員二科公募)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)枠(縦横自由)	七、〇〇〇円
B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)枠	

・十五歳(平成十四年四月一日生まれ)から二十一歳(平成七年四月二日生まれ)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子の出品は認めない。)

・作品寸法は右記の通りとする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。

・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。

・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横二m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。

・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) については半切額を認めない。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
 ・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十七回 中日書道展出品について(取扱い店の皆様へ)

●書類搬入

・所定の出品票を四月十九日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入して下さい。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費をお振込み下さい。)

・新規出品の十五歳(平成十四年四月一日生まれ)から二十一歳(平成七年四月二日生まれ)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。

・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。

・書類搬入がされていない作品は受け付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託して下さい。
・依頼・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品(五月十二日(金)午前九時半〜午前十一時) 愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。

●展覧会の搬入・搬出について

名古屋市民ギャラリー栄 搬入・陳列(六月 十二日(月) 午後一時〜午後五時)
 搬出(六月 十八日(日) 午後四時〜午後六時)

愛知県美術館ギャラリー 搬入・陳列(六月 十三日(火) 午後一時〜午後六時)
 搬出(六月 十八日(日) 午後四時〜午後六時)

名古屋博物館ギャラリー

一科作品 搬入・陳列(六月 十九日(月) 午後二時〜午後五時)
 一科搬出(六月 二十七日(火) 午前九時半〜正午)
 二科作品 陳列(六月 二十七日(火) 午後二時〜午後五時)
 二科作品 搬出(七月 二日(日) 午後三時〜午後五時)

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。
・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依頼はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

〔作品取扱店〕

- 浅井 梧竹堂 〒西三〇六三三 名古屋市中区あし原町六八一 電(〇五二)五〇四一二七〇三
- 石黒 五雲堂 〒西三〇八四 名古屋市中村区豊国通四一四六 電(〇五二)四二一七八六二
- 伊藤 大林堂 〒西三〇八四 名古屋市中村区香南一五〇七(長谷川コーポE) 電(〇五二)七七六一八八一
- 永 楽堂 〒西三〇八四 西尾市永楽町四一〇 電(〇五六)三五四二〇五三
- (株) 應 天堂 〒西三〇二七 岐阜市下鷺飼一四六八 電(〇五八)二九九一五二〇〇
- (有) 岡本頌文堂 〒西三〇八四 四日市市北町三一四 電(〇五九)三五二一六〇一〇
- 魁 盛堂 (株) 〒西三〇三三 名古屋市中区押切二二二一三 電(〇五二)五二一一三一一
- 加藤 長寿堂 〒西三〇八二 名古屋市中村区太閤一六一一三三 電(〇五二)四五一二四七五一
- (株) 川口春霞堂 〒西三〇三三 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四四四一八〇二四
- (有) 伽 藍 〒西三〇二二 名古屋市中区大須三一八一〇 電(〇五二)二四二一七七四一
- (有) 菊屋商店 〒西三〇三七 名古屋市中区新栄二一四一四六 電(〇五二)二四一一一四四五
- (有) 吸 月堂 〒西三〇八四 名古屋市中区清水二二二一二 電(〇五二)九三一六九四八
- 金陽堂表具店 〒西三〇七五 豊田市久保町三一七七一 電(〇五六)五三二一〇八六三
- 小松 表具店 〒西三〇六三 小牧市東二一五四四 電(〇五六)七五二〇二八一
- (株) 柴田紙店 〒西三〇九一 一宮市本町三一九一八 電(〇五八)六七二二〇〇一
- (有) 新 泉堂 〒西三〇三三 名古屋市中区若鶴町三四四一 電(〇五二)九〇一一〇五一四
- (株) 青 雲堂 〒西三〇八四 安城市今本町三一一一五 電(〇五六)六九八二二三三三
- (株) 青 柳堂 〒西三〇八四 名古屋市中区栄四一八(中区役所ビルF) 電(〇五二)二五九一〇三一一
- 創 源 工 房 〒西三〇三三 名古屋市中区若田三一〇六 電(〇五二)六二九一五〇三五
- (有) 莊 文堂 〒西三〇三七 知多市新知宝泉坊三〇一一 電(〇五六)二五五一一〇五一七
- (株) 大 玄堂 〒西三〇八四 岐阜市須賀一八一二五 電(〇五八)二七一一二六六二
- 名古屋キョー和 〒西三〇八四 名古屋市中区栄四二一一〇(小浅ビル2F) 電(〇五二)二六三一九四〇一
- (株)名古屋ホウコドウ 〒西三〇八四 名古屋市中区東水切町二二八一八 電(〇五二)九一五一七九九八
- 西川堂表具店 〒西三〇八五 一宮市本町四二二三一一一 電(〇五八)六七二一三六二九
- 平野筆墨堂(株) 〒西三〇三三 名古屋市中区大森一一二七〇一 電(〇五二)七九八一六六五一
- 松屋 紙 店 〒西三〇六三 半田市清水北町六三 電(〇五六)九二一一二五七二

第六十七回 中日書道展 日程表

四月十四日	金	書類(取扱店へ)	
四月十九日	水	書類搬入(業者) 本部へ	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
愛知県産業労働センター			
五月十二日	金	依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入	午前九時～午後五時
十三日	土	二科・鑑査	午前九時～午後五時
十四日	日	一科・鑑査	
名古屋市民ギャラリー栄			
十五日	月	裏打ち作品搬出	午後四時～午後六時
六月十二日	月	無鑑査(一部)(中日賞・桜花賞は県美に展示)	搬入 午後一時～午後五時 陳列
十三日	火	展覧会役員作品展示	第一日 午前九時半～午後六時
十四日	水	〃	第二日 午前九時半～午後六時
十五日	木	〃	第三日 午前九時半～午後六時
十六日	金	〃	第四日 午前九時半～午後六時
十七日	土	〃	第五日 午前九時半～午後六時
十八日	日	〃	第六日 搬出 午後四時～午後六時
愛知県美術館ギャラリーI			
六月十三日	火	審査顧問・特別出品・一科審査会員・二科審査会員・依嘱(一部～五部)・無鑑査(二部～五部)(一部～五部の海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞・桜花賞を含む)	搬入 午後一時～午後六時 陳列
十四日	水	展覧会役員作品展示	第一日 午前十時～午後六時

十五日	木	〃	〃	第二日 午前十時～午後六時
十六日	金	〃	〃	第三日 午前十時～午後八時
十七日	土	〃	〃	第四日 午前十時～午後六時
十八日	日	〃	〃	第五日 搬出 午後四時～午後六時
名古屋博物館				
六月十九日	月	一科搬入・陳列	〃	搬入 午後二時～午後五時 陳列
二十日	火	一科展覧会	〃	第一日 午前九時半～午後五時
二十一日	水	〃	〃	第二日 午前九時半～午後五時
二十二日	木	〃	〃	第三日 午前九時半～午後五時
二十三日	金	〃	〃	第四日 午前九時半～午後五時
二十四日	土	〃	〃	第五日 午前九時半～午後五時
二十五日	日	〃	〃	第六日 午前九時半～午後五時
二十六日	月	休館日	〃	
二十七日	火	一科搬出・二科搬入	〃	一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入
二十八日	水	二科展覧会	〃	二科陳列 午後二時～午後五時
二十九日	木	〃	〃	第二日 午前九時半～午後五時
三十日	金	〃	〃	第三日 午前九時半～午後五時
七月一日	土	〃	〃	第四日 午前九時半～午後五時
二日	日	〃	〃	第五日 搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月十八日(日) ウェスティンナゴヤキャスル(予定)

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2016年 一しあわせ薄い人々に愛の手を— チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に200万
東海テレビ福祉文化事業団に100万 寄託
各支部より各県の中日新聞經由にて 80万

募金参加者ご芳名

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 樽本 樹邨 | 川崎 尚麗 | 黒田 玄夏 | 高橋 秀箭 | 佐々木崑邦 | 柳原 晴夫 | 服部 松香 | 伊藤 綾華 |
| 工藤 俊朴 | 黒野 清宇 | 武山 翠屋 | 佐野 桃子 | 渡邊 笙鶴 | 鶯野 看雲 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 佐藤 慶雲 | 黒野 清宇 | 田中 白雲 | 高橋 秀箭 | 菅野 美苑 | 天野 梢華 | 伊藤 杏華 | 伊藤 美扇 |
| 武内 峰敏 | 黒野 清宇 | 位田 芙千 | 藤本 鷗舟 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 富田 栄栄 | 後藤 汀鷺 | 安藤 鵜舟 | 荒川 清華 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 中野 玉英 | 土屋 陽山 | 片岡 秋華 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 波切 童州 | 陽山 陽山 | 加藤 松翠 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 原田 凍谷 | 陽山 陽山 | 栗田 江泉 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 松永 清石 | 松永 清石 | 安藤 蘇道 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 関根 玉振 | 関根 玉振 | 安藤 蘇道 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 天野 白雲 | 天野 白雲 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 上田 賦草 | 上田 賦草 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 大池 青岑 | 大池 青岑 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 大島 緑水 | 大島 緑水 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 岡野 楠亭 | 岡野 楠亭 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 梶山 夏舟 | 梶山 夏舟 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 加藤 矢舟 | 加藤 矢舟 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |
| 加藤 裕 | 加藤 裕 | 相崎 紫憬 | 荒川 敬子 | 荒川 祥鸞 | 荒川 清香 | 伊藤 和代 | 伊藤 白蒲 |

200万円を寄託
中部日本書道会
中部日本書道会(名古屋市中村区)は十五日、中日新聞社会事業団の年末助け合い運動に二百万円を寄託した。



た「愛の募金」で、伊屋市中区の事業団事務藤昌石理事長(写真左から2人目)らが名古

中日新聞 2016.12.16(金)

二宮支部

平成二十八年十二月二十一日(水)
中日新聞一宮総局へ支部長岩田潤流氏と一宮書道連盟会長川浦碧濤氏が伺い、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」の一宮総局長栗田秀之氏に十万円を寄託。



〔半田支部〕

平成二十八年十二月十九日(月)


中日新聞半田支局へ支部長山内江鶴氏と支部次長平松采桂氏が伺い、社会事業団に十万円を寄託。



猪又	松峰	植田	秀穂	江口	大濤	大竹	玄友	小野	田景月	神谷	光園	鬼頭	城山	黒川	鵬霄	小林	恵風	佐藤	清華	菅沼	貴香	世古	口玉	扇
井深	春扇	上田	青香	榎本	照乃	大谷	万里	界外	玉桜	神谷	采邑	衣川	彰人	黒田	寿水	小林	紅琳	佐藤	桑碩	杉浦	瑠鈴	世古	口大	虚
伊吹	代美	上前	総子	江馬	翠峰	大谷	素子	貝沼	春雨	神谷	松扇	木俣	紫香	黒田	竹翠	小林	祥鶴	佐藤	緑風	杉浦	遙岑	仙石	祥香	
今井	芝香	鶴飼	能勢	遠藤	栄久	大塚	窓月	柿本	香苑	神谷	静苑	木全	春琴	黒野	芝香	近藤	継華	真田	九龍	杉江	かよ子	千田	京華	
今井	静測	宇佐	美匠香	遠藤	紫香	大塚	裕子	加古	松泉	神谷	素景	木村	霞月	黒柳	葉舟	近藤	理子	佐野	翠峰	杉坂	育子	田尾	穂昂	
今井	桃丘	牛田	美泉	塩谷	秀蘭	大野	樹抱	加古	仔春	神谷	杏華	木村	潮香	小池	玲翠	近藤	翠香	佐山	美楓	杉田	節子	高井	香園	
今枝	節峰	後田	清子	大上	懂花	大橋	幽徑	籠瀬	提花	神谷	提花	木村	明峰	黒野	葉舟	近藤	理子	佐野	翠峰	杉坂	育子	田尾	穂昂	
今田	紅溪	白田	香風	大川	澄泉	大原	朱桃	笠原	喜美江	神谷	雪峰	久德	蓬香	幸村	溪雪	近藤	青洩	澤野	麥邨	式守	白萩	高木	玄齊	
井村	耕心	内田	翠聲	大木	青嵐	大森	香鶴	梶田	月湖	神谷	遵松	清沢	華舟	河村	黄園	近藤	延子	式守	白萩	菅生	攝堂	高木	紅舟	
入谷	霞流	内本	久園	大崎	水愁	岡崎	鸕風	加島	遊舟	川井	漁舟	清田	麥舟	香山	孤竹	近藤	梅鶯	篠田	祥濤	鈴木	愛	高木	光風	
岩井	榮華	内山	蘭月	大鹿	珠翠	小笠原	青華	梶山	盛濤	川井	漁舟	清田	麥舟	香山	孤竹	近藤	梅鶯	篠田	祥濤	鈴木	愛	高木	光風	
岩越	勝園	宇野	光峰	大曾	根弘風	岡田	恵鶴	片山	紫雲	河合	桂舟	日下部	みゆき	國府	谷妙仔	近藤	芳玉	柴田	厚実	鈴木	花園	高木	清雲	
岩崎	史萌	梅村	鶯谷	太田	借風	岡田	恵香	片山	清洲	川合	玄鳳	艸野	慧泉	小島	岐香	近藤	由果	柴田	華逕	鈴木	京楓	高田	香坡	
岩瀨	澄秋	梅村	彩香	太田	佳香	岡田	翔鳳	加地	孤握	川合	採星	葛谷	恵園	小島	瑞月	近藤	由紀枝	柴田	桃花	鈴木	香萩	高田	牧香	
岩田	紫雲	梅村	鉄明	太田	紫翠	岡田	麗峰	桂山	瀉江	河合	醉光	工藤	子鷗	小島	瑞柳	齋藤	翠苑	柴田	玲甫	鈴木	香鵬	高根	桂祥	
岩田	澗流	梅村	悠徑	太田	浄泉	岡田	紅華	加藤	永樵	河合	翠山	工藤	茜邑	小島	雪舟	齋藤	千秋	柴田	秀瑤	鈴木	紅瑤	高場	圭子	
岩田	緑汀	浦山	妙琴	太田	青華	岡田	敬子	加藤	花畦	川浦	碧濤	國島	英華	小島	千翠	齋藤	琴泉	瀨谷	鳴風	鈴木	史鳳	高橋	華堂	
岩永	大抱	江川	翠苑	太田	朴仙	岡本	桃香	加藤	紅泉	川口	由美	久納	竹景	兒島	泰碩	酒井	光華	瀨谷	玉華	鈴木	松厓	高橋	竹香	
岩本	祥龍	江口	清翠	太田	由香	小川	琴風	加藤	定子	川崎	清吟	熊崎	北咏	小島	白汀	酒井	香泉	志水	憬堂	鈴木	静香	高橋	白羊	
植田	錦舟	江口	蒼華	太田	游山	小川	秀水	加藤	秀慧	川角	蘭香	倉内	秀佳	小島	泰子	坂井	曾鶴	志水	春汀	鈴木	青楓	高松	秀翠	
						荻原	春蓬	加藤	松雲	河内	飛園	倉田	瀨碧	小谷	春苑	榊原	珠月	清水	春蘭	鈴木	石城	滝	白雅	
						奥田	千萩	加藤	松香	河津	紫雪	倉田	朝華	小玉	太貫	坂本	美薔	清水	流香	鈴木	芳春	滝本	白峰	
						奥田	蘭庭	加藤	翠林	川出	泉麗	倉橋	華仙	小塚	珠香	坂井	柳絮	志村	舟泉	鈴木	美理子	田口	勢望	
						奥村	三葉	加藤	夕堤	河原	彩雲	倉橋	高堂	小寺	彩恵	桜場	龍峰	志村	松琴	鈴木	美都子	武井	岳峰	
						尾崎	紫光	加藤	博子	河原崎	坡青	倉橋	松谷	小寺	須美子	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	悠水	竹内	栄心	
						尾崎	澄光	加藤	碧涛	川本	赫汀	栗木	琴聲	後藤	啓太	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						長村	子鴻	角野	松鶴	川本	大幽	栗木	高節	後藤	香波	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						小澤	佳路	金澤	秀鴛	岸田	松峰	栗本	珠路	後藤	光飛	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						尾関	楊花	可児	長望	岸本	静子	厨	柳青	後藤	春洋	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						落合	玉泉	金丸	翠石	北岡	青滲	久留宮	千扇	後藤	蘇月	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						小野	蹊泉	加納	玉珠	北川	爽風	久留宮	千扇	後藤	蘇月	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	
						尾之内	柳雪	鎌倉	彩風	北村	光苑	黒川	虚宇	後藤	文明	酒向	虹風	下郷	豊園	鈴木	容華	竹内	紫燕	

塚本 桃里	塚田 俊可	中条 彰山	千葉 晨翠	多和田 墨濤	為水 剛	田村 泉舟	玉樹 榮香	玉置 尚華	種田 瑞鳳	谷口 大観	谷口 琇苑	谷利 紫鳳	谷 泉石	棚橋 一葉	田中 千翠	田中 照葉	田中 祥雲	田中 修文	田中 紫雲	田中 幸江	田中 光穂	田中 幸香	田中 玉穂	田中 惠美子	立松 鶴風	楯 青萌	田代 春苑	田島 不染	武山 昂石	武山 朝路	武野 桂華	武野 優璽	武田 晶庭
長坂多津子	中川 麗香	中川 星光	中川 瑞玉	中川 翔鶴	中川 貴舟	永井 青楓	永井 恵子	内藤 一翠	鳥居 柳城	鳥居 竹泉	外山 悠汀	富田 蘭月	富田 青邑	富田 華妍	戸松 紅翠	戸松 香苑	朽久保律子	戸崎 翠虹	嶋澤 澄江	寺本 陽春	寺嶋 三和	寺島 春恵	寺尾 桑林	手島 伸子	坪井 白汀	坪井 濤華	角田 和泉	都筑 聖園	都築 心扇	土屋 春聲	土屋 小苑	辻 秀麗	築山みなみ
庭田 紫光	丹羽 峰仙	丹羽 茜麗	丹羽 清郷	丹羽 春蘭	仁田脇京華	西村 松花	西川原翠苑	西垣 美茜	西 恵香	新美 珠光	新美 秋鳳	長屋 天虹	中村 峰泉	中村 竹童	中村 曾南	中村 千秋	中村 清岳	中村 清園	中村 翠雲	仲村 春水	中村 和則	中林 俊香	中林 景	中野世津香	永谷 恵子	中田 和香	永田はる恵	永瀬 珠香	永瀬 紅蘭	中島祐三子	中島 祥園	中坂 緑風	永坂 抱月
林 華泉	早川 和子	浜田 翠雲	濱田 紫雲	馬場 紀行	羽根 寿子	花井 清水	服部美枝子	服部 蘇華	服部 春逕	服部 華泉	波多野香葉	羽田野江楓	秦 雪暎	長谷川鸞卿	長谷川幽岱	長谷川滴水	長谷川眞山	長谷川春香	長谷川惠玉	長谷川華香	長谷 太郎	橋本 成良	羽柴 苔谷	橋詰 桃邨	萩原 祐子	萩野 琴苑	則武 穹	野村 清涼	野村 暁峰	野々垣清城	野中 曾川	野田 虹園	野口紀代子
平岡 妙紅	平岩 美風	比良 公美	日比野妃扇	日比野翠春	久田 宏道	日江井芝香	坂野 竹童	坂野 渚月	阪野 小波	半田 博子	伴 晋水	坂 九塔	原田 南鳳	原田 清尚	原田 圭竹	原賀 瑞芳	原 霞扇	早野 江郷	林田 虎峰	林 玲玉	林 留春	林 美枝子	林 寶邨	林 柏堂	林 十糸	林 天翔	林 大鳳	林 如華	林 春翠	林 紫州	林 紫香		
堀部 恵苑	堀内 松琴	穂積 爽風	堀田 恵香	星野 蘭雪	古田 秀紅	古川 花溪	夫馬 春園	藤原 郁代	藤野 秀代	藤田 寒樹	藤澤 映秀	福西 史呂	福谷 紅華	福谷 旭濤	福田 徑揚	福島 有何	福岡 林泉	深谷 惠庭	深見 蒼海	深津 洋子	深田 芳香	広田 陽水	廣澤 凌舟	廣澤 光雪	広井 秀琳	平松 心華	平野 芳碩	平野 美扇	平野 公慎	平野 公鶴	平賀 秀園		
松元 紫翠	松元 彩華	松本 紅雨	松原 紫園	松野 良園	松田 樹幹	松田 秋芳	松田 華月	松田 鶴鵬	松下 武義	松下 聖心	松下 嬉春	松下 華邨	松澤 鶴苑	松澤 昂永	松佐古溪水	松崎 青漣	松崎 朱實	松岡 永律	松浦 瑞月	松浦 華苑	松井 秀麗	間瀬 麗雪	増田 蘭苑	増田 春暉	増田 山翠	牧 仙岳	前田千登世	前田 小鶴	前島 春汀	本間 翠眉	本田 秀岳		
村瀬 竹風	村瀬 季舟	村上 史麗	向山 青泉	三輪田香苑	三輪 晴風	三輪 三麗	宮原 玲舟	宮田 洋美	宮田 清風	宮崎 富山	三宅 紀璋	美濃羽城開	皆川 嗣恵	三橋 紅月	光澤 閑石	溝口 純華	溝口 子静	水野 朋香	水野 清花	水野 松陰	水野 さと子	水野 泉美	水谷 有志	水谷 敏子	水谷 天風	三代 雄峯	三島 濟美	見神 惠峰	三浦 景波	丸山 聖峰	真野 翠芳		
山内 香霖	矢野 翠芳	箭野 景風	梁川 景雲	矢田 紀香	安田 雪篁	安田 翠嵐	保田 翠溪	矢島 潮香	八木 彩花	森本 夏溪	森部 智榮	森下 久美	森口 晶月	森 隆城	森 實年子	森 政子	森 冬華	森 雪華	森 清葉	森 翠葉	森 紅雀	森 京華	桃井 祥谷	物部 浩子	元村 征子	元橋 逸舟	元祐 秀蘭	望月 春燕	望月 希彩	毛利 惠風	毛利 曉草	村松 紫雲	村田 籬香
吉田 清城	吉田 紅房	吉田 江楓	吉田 香雪	吉澤 劉石	吉川 清軒	吉井 子雪	横井 静嘉	山脇 三枝	山本 英男	山本 史鳳	山中 香川	山中 桂山	山田 流芳	山田 白陽	山田 蹋雲	山田 千鶴	山田 素光	山田 青舫	山田 梢心	山田 紅照	山田 杏華	山田 晞予	山口 海石	山口 律舟	山口 幸子	山口 優翠	山口 裕子	山岸 蕙世	山川 邦山	山川 孝子	山川 昌泉	山内 窓楓	
吉村 峰燕	吉村 美雪	吉村 和子	吉原 純芳	吉田 美影	吉田 桃花	横井 静嘉	山脇 三枝	山本 英男	山本 史鳳	山中 香川	山中 桂山	山田 流芳	山田 白陽	山田 蹋雲	山田 千鶴	山田 素光	山田 青舫	山田 梢心	山田 紅照	山田 杏華	山田 晞予	山口 海石	山口 律舟	山口 幸子	山口 優翠	山口 裕子	山岸 蕙世	山川 邦山	山川 孝子	山川 昌泉	山内 窓楓		

〔西三河支部〕
 会員の善意10万円
 中部日本書道会
 西三河支部寄託
 中部日本書道会西三河支部は二十二日、同会本部(名古屋市中区)が会員から集めたチャリティ募金の一部十万円を中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に寄託した。
 中日新聞岡崎支局を訪れた山口律舟支部長(安城市)らは「障害者福祉を充実させるため、少しでもお役に立てれば」と述べた。写真。



中日新聞 2016.12.23(金)

金子 秀越	川松 枳泉	北野 春艸
加納 杏華	河村 紫夙	北村 玉鳳
壁谷 由美	川村 春霞	鬼頭 冬扇
上村 桂蘭	河村 典子	鬼頭 豊寧
神谷 幸穂	河村 美翠	木俣 紫邑
神谷志奈子	河村 抱山	木村 輝扇
神谷 秀花	河村美喜枝	木村 和象
神谷 芳翠	河村 雄鳳	清田 輝扇
龜井 陽	川村有紀奈	岫 悦子
粥川 緋音	川本 青柎	日下部響風
河合 秀苑	神尾 青峰	久世たか子
河合 碩山	神田 閨秀	工藤 佳瑛
河合 澄香	神田 醉月	工藤 玉州
川北 博子	神戸 春谷	工藤 尚篁
川口 花園	木澤 麗川	国枝 晃治
川口 紫泉	岸田 昌子	國廣 寿仙
川口千代子	木島 静月	久野 天山
川口 美舟	岸本 紫翠	久保田俊子
河島 紫虹	北川 玲香	熊谷 弦謠
川澄 良子	北野 敦子	熊崎 昭子

〔北勢支部〕

平成二十八年十二月十九日(月)

中日新聞四日

市支局へ支部
長井口方燕氏
と支部次長伊
藤岬亭氏が伺
い、長谷川洋
一支局長に十
万円を寄託。



熊澤 青流	熊田 梅久	久米 水聲	倉科 清伶	倉光 枝芳	栗木 美楓	栗山 幽香	樽林 春翠	黒岩 翠華	黒田 松峰	黒田 レア	畔柳 佳奈	黒柳 知里	桑名 孝枝	小池 理一	小石 順	小泉 晴生	小泉 路子	小出 綾倩	小出 和香	小宇佐久美	甲谷 千樹	甲谷 富美子	鴻巣 玉兔	神山 彩華	小澤 松煙	小島 華扇	小島 幸波	小島 瑞香	小島 廣子	小島 大立	小島 正人	児玉 翠風	小塚 祥貞							
古塚 璃幸	小寺 惠蘭	後藤 桂月	五藤 秀翠	後藤 智明	後藤 柳月	小戸森麻利子	小早川恵祥	小林 敬子	小林 翠月	小林 稚泉	小林 千鶴	小林 直子	小林 峰玉	小林 由泉	小林 洋子	小林 月泉	小松 翠篁	小見山輝山	子安 杏庭	小山 香碧	小山 峯雲	近藤 明彦	近藤 瑛月	近藤 諷谷	近藤 翠嶺	近藤 利孔	近藤 芳玉	近藤 道代	近藤 瑤華	近藤 嘉江	近藤 玲翠	齋藤 禹月	齋藤 矧川							
齋藤 清川	坂井 虹輝	酒井 悠泉	坂川 翠翹	榊原 観峰	榊原 悠園	榊原 令子	酒田 叡翠	坂辺 子桜	坂部 青嶂	桜井 花凜	桜井 光雲	桜井 清篁	峪口 紅霞	笹本 都和	笹本 空谷	佐藤 悦子	佐藤 恵園	佐藤 幸泉	佐藤 紅蘭	佐藤 清暁	佐藤 桃華	佐藤 不朽	佐藤 芳泉	佐藤 正明	佐藤 みのる	佐藤 秀影	澤田 未幸	三野美恵子	三野 滄星	三野 恵翠	塩原 翠山	志知 隆道	志津野穂夏							
篠田 仰信	篠田 瑞芳	篠原 久祥	柴田 惠美子	柴田 溪葉	柴田 真由美	柴田 瑞香	島田 楓林	嶋津 智楊	清水 省子	清水 眞美	清水 由美	志村 玲香	白塚山山城	白柳ゆかり	神藤 恵翠	杉浦 悦子	杉浦 鶴雲	杉浦 薫水	杉浦 幸子	杉浦 仁美	杉浦 芳苑	杉浦 芳子	杉本 采和	杉本 扇鈴	杉山 秀夫	杉山 歩月	杉山 洋子	鈴木 花邸	鈴木 京子	鈴木 香葉	鈴木 寿星	鈴木 祥翠	鈴木 如翠							
鈴木 眞壽	鈴木 翠芳	鈴木 清華	鈴木 漱龍	鈴木 千晴	鈴木 美翠	鈴木 美峰	鈴木 誠人	鈴木 彬生	鈴木 姫泉	須田 静波	関 春香	関根 玉翠	関村 吟香	関根 吟香	宗林 翠徑	曾我 美舟	曾根 精華	祖父江京華	祖父江瑞鶴	台場 知香	高木 愛子	高木 濤翠	高瀬 江舟	高津 朱美	高津 徑花	高取 翠揚	鷹羽 秀山	高橋 江翠	高橋 寿香	高橋 翠葉	高橋 素花	高松 彩月	高山さち子							
豊嶋 青岑	豊田 翠香	鳥居 桃華	鳥居 玉瑛	内藤 春翠	猶井 紅風	永井 恵子	永井 紅潤	中井 静景	中井 天鱗	永井 友理	永井 華虹	長江 華華	長江 幸聲	中尾 幸聲	中川 翠山	中川 瑞風	中川 美翠	中川 正至	中川 麗泉	堤 光星	坪井 揖溪	鶴見 香翠	鶴見 翠川	鶴見 蒼雲	勅使河原恵翠	寺岡 春蘭	寺澤 惠泉	寺澤 祐峰	寺澤 茂子	土井 秀栖	藤堂 弘風	遠山 翔雅	遠山 春美	徳倉 禾風	戸田 夏舟	戸田 翠徑	戸田 冬峯	戸塚 澄光	富田 梢峰	戸本 舟泉

〔中南勢支部〕

年末助け合い運動
28日まで義援金受け付け
中日新聞社会事業団
電話0262(21)0880
〈受け付け〉
前10時～後5時
(土・日・祝休み)
〈振込先〉
郵便振替
00830-8-53808

中南勢支部が
10万円を寄託
中部日本書道会
中部日本書道会
中部日本書道会中南
勢支部は、中日新聞社
高根桂祥支部長に写
した。

会事業団の「年末助け
合い運動」に、地域の
福祉などに役立ててほ
しいと、会員から募つ
た10万円を寄託した。
重総局長に目録を手渡
した。

真田が二十三日、津
市鳥居町の中日新聞三
重総局を訪れ、阿部和
久総局長に目録を手渡
した。

中日新聞 2016.12.23(金)



（岐阜支部）
平成二十八年十二月二十日（火）
中日新聞岐阜支局へ支部長林玲玉氏と
事務局長山中桂山氏が伺い、十万円を
寄託。

中川 玲波 中村 彩香 西川 晴江
中沢 志香 中村 晶光 西川 万央
長澤 美峰 中村 翠月 西川 佳江
永島 育子 中村 青焔 錦 香籬
中島 紅舟 中村 眸 西田 海濤
中田 菊香 中村 楽豊 西田 康華
永田 桂華 中村 鸞邑 西村 翠羽
中出 恵林 中本 紫苑 西山 美翔
中西 草城 中山 芳泉 丹羽 毘代
中西 伸江 夏目 美沙 丹羽さとみ
中西 笠舟 成田 尚子 丹羽 鈴子
中根 翠栄 鳴川 翠月 丹羽 博美
長野 榮信 成瀬 伸芳 庭田 静苑
中野 滋 新津 美泉 布川 千鶴
中野 秋石 西尾 孤山 根津 郷巴
中野 聲石 西尾 清麗 根谷 捷子
中野 照子 西尾 雅子 野田 花翠
長畑 清楓 西垣 梨雪 野田 佳楊
中原 玉翠 西川 樹顛 野田 啓華
中村 蕙風 西川 允子 野田 江泉

野田 翠香 野田千津子 濱屋 春瑛
野田 智子 早川 緑園 日高 真弓
野田はる美 早川 林花 日比野柳翠
野田 蘭月 映洲 平井三千代
野田 流水 華静 平岩 霞葉
野々垣煌玉 皓月 平田 瞳
野々村宜子 高風 平野 京子
信川 芳枝 彩香 平野 和秀
野村 樹恵 慈恵 平松 圭鳳
野村 揚月 尚志 平光 朱扇
迫間 祥軒 澄江 深井 悠水
橋本 佳静 誠哉 深井 尚子
長谷川華星 大雅 深谷 華恵
長谷川治光 柏亭 深谷 紅蘭
長谷川春汀 寿江 堀 梅肇
長谷川瑞鳳 美翠 堀内 無我
長谷川千春 由美 堀木 美峰
長谷川鳳声 緑香 堀田 孝子
長谷川緑光 和苑 堀田 祥光
波多野朱芳 香風 福原 秋冷
服部 芝華 原 翠舟 福山 恵山
服部 修江 原 素代 藤井 和彦
服部 瑞花 原 葵泉 藤江 映春
服部 青轡 原田 光泉 藤田 二郎
服部 稲華 原田 峰葉 藤戸 絢春
坂 霞汀 藤原 清泉 藤原 清泉
花井 竹聲 判治 青泉 藤原 清泉
花井 蘭徑 坂野 幸子 二村 東翠
馬場 紅雲 樋口 紀子 船橋 幽泉
馬場 樟蔭 樋口 白扇 古瀨 清艸
馬場 青邨 彦坂 末子 古瀨 暁子
濱島 緑風 久田 光玉 古田富美子
濱田 芳園 久田 千祥 古橋 紀風
松居 光子 水谷 廣風 水谷 君代
村瀨 紫苑 八谷 白仙 山田 陽水
柳瀨 緑風 山本 小谿 渡辺 美風

第67回 中日書きぞめ展

会期 平成29年3月19日(日)～3月20日(祝・月)

会場 ナディアパーク2階アトリウム 名古屋市中区栄三丁目18-1

授賞式 平成29年3月20日(祝・月) ナディアパーク 3階 デザインホール

あとがき

・会報第一八三号をお届け致します。
 ・会報の役目は皆様への情報の提供と資料として後世の会員に引き継ぐこと、この二点ですが、興味を引く企画も必要であるとも思っています。そこで「こんなことを提供して欲しい。」そんなご希望ご意見がありましたら編集部までご連絡下さい。
 ・愛知・岐阜・三重三県にまたがる広い範囲での共有出来る内容であるか、掲載可能であるかの検討をさせていただきます。
 ・会員皆様方の本年のご健勝、ご健筆を願っております。(編集部)

新入会員紹介(十・十一月分)

●半田支部 永井 玲苑

計 報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

- 9月28日 正会員 鈴木祥苑氏 享年72才
- 10月 正会員 石川仙城氏 享年63才
- 10月7日 正会員 井上徑蘭氏 享年88才
- 11月3日 正会員 鈴木翠芳氏 享年83才
- 12月22日 評議員 戸松紅翠氏 享年77才
- ご主人 秀介様

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限りです。

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

第 号

記

- 書道教室推薦証等交付申請書 一通 (申請書は本部へご請求下さい)
- 推薦証(別記)
- 推薦看板(写真)
- アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。
- 申込資格
- 本会正会員及び選考会で認められた準会員
- 推薦手数料 二五、〇〇〇円 (承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。)
- 担当 教育部

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓名) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名		
教室住所	〒	
ふりがな		
指導者名 (申請者名)	中日書道展 格	資
備考		

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりです

受付年月日 平成 年 月 日
 交付年月日 平成 年 月 日
 交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

ホームページアドレス
<http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス
info@cn-sho.or.jp

会費未納の方へお願い

年度末も間近となってまいりました。平成28年度会費未納の方は、至急お納め下さい。(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)

本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。
 支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等
 変更事項は本部までご一報下さい。

052(583)1900